

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 □専門科目： _____

外国語科目： 前期課程・一般選抜

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問Ⅰ

【出題意図】

近年学術的にも盛んに取り上げられている「人新生」や環境問題に関する教育学の論考を取り上げた“Wild Pedagogies”という独自の切り口から展開される考察を的確に読み解き、過不足なく日本語訳することを求める問題とした。

【解答例・講評】

精度の高い解答が見られた一方で、基本的な単語や文法知識の不足から大意をつかみ損ねている解答が散見された。設問として取り上げられた文章だけでなく、前後の文脈や背景にある前提を押さえた読解が重要になる。

設問Ⅱ

【出題意図】

21世紀型スキルの測定評価と教育に関する書籍より、その評価における課題について論じた章の一部を取り上げ、文章の主旨や、キーワードである「真正の評価」の意味を理解した上で、日本語訳および日本語による説明が分かりやすくできるかどうかを問う問題とした。

【解答例・講評】

設問Ⅰと同様に、精度の高い解答が見られた一方で、基本的な語彙や文法知識の不足から大意をつかみ損ねている解答が散見された。特に説明問題（問題3）は、下線の付された段落全体の的確な読解を求めるものであったが、一部の文の日本語訳のみに留まる解答が多かった。

試験科目名 専門科目 : 教育政策科学

外国語科目 : _____

小論文 (社会人特別選抜)

小論文 (外国人留学生特別選抜)

設問

【出題意図】

共通問題では、教育政策科学の研究を進めていくうえで不可欠な図表やグラフの読み取り能力、ならびに読み取った情報を複数の社会的文脈に位置づけて適切に意味づけ、解釈する力を問うことを目的として出題した。

領域別の問題について、教育社会学領域では基本的事項について論理的かつ簡潔に説明できる能力と、教育社会学領域における重要イシューの理解度とそれに基づく批判的思考力を問う問題とした。教育行政学領域では、日本の教育行政・制度についての基本的な知識に立脚して図表を読み取る能力と、基本的事項について論理的かつ簡潔に説明できる能力を問う問題とした。比較教育学領域では、海外で実施されている教育政策の事例を比較の視点から考察し、仮説を組み立て、論理的に説明する力を問う問題とした。

【解答例・講評】

(共通問題)

単に表面上のデータ解釈にとどまらず、その背景や因果関係を説明できるかどうか重要な評価基準となった。多くの回答は表層的なデータの記述にとどまり、複数の社会的文脈に位置づける学術的な考察に欠けていた。図表やグラフの特徴を単に記述するだけでなく、その意味や社会的背景を論理的に展開する力を今後一層鍛える必要がある。

(教育社会学領域)

教育社会学領域における基本的事項について論理的かつ簡潔に説明できる能力が十分とは言えない傾向にあった。教育達成に関わる親の階層の影響についての理解は一定程度確認出来る。その一方で、能力主義以外の分配のあり方についての知識・理解などが十分とは言えない。

(教育行政学領域)

日本の教育行政・制度についての基本的な知識を問題に即して適切に選択し展開することが必ずしも十分とは言えない傾向にあった。また、図表の読み取り自体は一定程度評価できる結果であったが、それをふまえて社会実装や制度の作動を論じる問題に対しては十分対応できなかった。また、やや複雑な問題の指示に対応できない傾向があった。語句説明問題については、教科

書的知識は一定程度備えているものの、具体例を展開するには必ずしも至っていなかった。

(比較教育学領域)

韓国における高校平準化政策を日本に導入した場合に考えられる課題としては、高校入試競争の緩和を徹底することで競争が大学入試や就職時により激化した形で持ち越される可能性や、校外教育を通じた教育の不平等の拡大の懸念、私学の自由が侵害されるおそれなどが解答として考えられる。また、取り上げる課題に応じてそれぞれに要点を押さえた検証方法が論理的妥当性をもって記述される必要がある。実際の答案では前提知識の薄さからくと思われる要点把握の弱さがみられた一方で、論理的な思考の展開という点では一定の評価ができる記述がみられた。

◎出題意図, 解答例, 講評

- 試験科目名 専門科目: グローバル共生教育論コース前期2年の課程 (一般選抜)
 外国語科目: _____
 小論文 (社会人特別選抜)
 小論文 (外国人留学生特別選抜)

設問 I 共通問題 (全員解答すること)

教育のグローバル化の特徴を説明し、それに伴う課題と対策について事例を挙げながら論じなさい。

【出題意図】

【設問 I】

問題文の指示に従ったうえで専門知識に基づき論理的に解答しているかどうか、用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

【解答例・講評】

【設問 I】では、グローバル化による教育への影響について、カリキュラム改革、国際共修学習の開発などの側面からその特徴、課題および対策を述べた解答が多く、正答率は比較的高かった。

設問 II (志望する専門領域の問題を選択して解答すること)

【国際教育開発論領域】

教育政策における標準化 (グローバル基準) と地域化 (国家のアイデンティティ、文化、言語) の間の対立関係について、事例を挙げながら論じなさい。

【学校教育論領域】

近年、日本の学校教育における総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を支えるための体制づくりが注目されている。その体制づくりに求められる整備、課題および対策について、事例を挙げながら論じなさい。

【多文化教育論領域】

性別や障害、貧困など、複数の社会的属性が交差する外国籍の人びとをめぐる教育の課題について、具体例を挙げて論じなさい。

【出題意図】

【設問 II】は各専門領域についての知識を問う問題である。教育政策における標準化・地域化の間の対立関係、総合的な学習 (探究) の時間、複数の社会的属性が交差する外国籍の人びとの教育課題を取り上げた。これら各領域のテーマについて、問題文の指示に従ったうえで専門知識に

基づき論理的に解答しているかどうか、用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

【解答例・講評】

「国際教育開発論領域」における問いへの回答では、標準化と地域化に関する概念や事例は挙げられていたものの、標準化と地域化との対立関係についての説明が不十分な解答が多かった。

「学校教育論領域」における問いへの回答では、事例を挙げつつ、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を支える体制づくりに必要な整備や課題については適切に説明されていたが、対策についてはさらに詳しい言及が求められる。

「多文化共生教育論領域」における問いへの回答では、外国人に関する教育課題については十分に述べられていたが、外国人の多様な社会的属性が交差する特徴を踏まえた分析は十分ではなかった。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 □専門科目： 前期課程・一般 教育情報アセスメントコース

□外国語科目： _____

□小論文（社会人特別選抜）

□小論文（外国人留学生特別選抜）

設問Ⅰ

【出題意図】

・能格という文法構造と格表示における省略という言語現象を鍵として，言葉を扱う上での難しさ（曖昧さ）や言語発達との関連性を理解できているか，またその理解を適切に（必要に応じて具体例を挙げて）説明できるかを問う。

【解答例・講評】

いずれの問においても，文章の表現上および意味上の構造を考える上で重要となる「格」という概念やその扱いの難しさについてよく説明できていた。また個別言語間の比較や身近な言語使用の具体例と結びつけ，これらを比較的適切に説明できていた。

設問Ⅱ

【出題意図】

・全国学力・学習状況調査における問題点や課題について述べた文章を読み，どのような対策が考えられるかについて述べることができるか。

【解答例・講評】

問1，2ともに，現在の全国学力・学習状況調査に対して筆者が問題と感じている点を理解し，それらに対する対応策について，具体例をあげながら説明できているかを評価する。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 ■ 専門科目： 教育心理学コース（前期課程・一般選抜）

外国語科目： _____

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問 共通問題

【出題意図・解答例・講評】

領域に共通する基礎的な教育心理学研究法である実験法の長所と短所について，指定された語を用いて回答を求めた。指定された用語を適切に理解できているか，また，それらを使用して長所と短所を理論的に説明できているかどうかという観点から採点を行った。

設問 A 問題（教授学習）

【出題意図・解答例・講評】

領域についての知識を問う A 問題では，動機づけの側面から授業における知的好奇心を高める方法，知識学習における諸問題の側面から機械的学習の特徴，教授者の支援の側面から教育における足場かけを取り上げた。（受験者欠席のため講評なし）

設問 B 問題（発達心理）

【出題意図・解答例・講評】

領域についての知識を問う B 問題では，J.ピアジェ (J.Piaget) と L.コールバーグ (L. Kohlberg) による道徳性発達理論の対比，生後 9 か月頃の三項関係成立期における指差し行動，青少年の非行や反社会的行動の背景要因について取り上げた。これらのトピックについて，問題文の指示に従った上で，自身の有する知識に基づいて適切に説明が行えているか，解答の論理的な展開が適切か，用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

設問 C 問題（発達障害）

【出題意図・解答例・講評】

領域についての知識を問う C 問題では，障害概念として近年提唱された障害の統合モデルや合理的配慮，発達障害児・者の認知特性を研究する上で重要となる実行機能について取り上げた。これらのトピックについて，問題文の指示に沿った上で，自身の有する知識にもとづいて適切かつ論理的に説明ができているか，用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名

専門科目：

臨床心理学コース

外国語科目：

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問 I

【出題意図】

最も代表的な精神疾患の一つである統合失調症についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

思考障害、自我障害などの代表的な症状、発症は若年層に多いこと、操作的診断基準の理解、薬物療法を中心とした治療、心理職による多面的な支援等について基礎的な知識があるかなどの観点から評価を行った。

精神医学用語をきちんと使用し、回答できている受験者がいる一方、疾患についての理解が不十分で基礎的な学習が欠けていると思われる者も見られた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問 II

【出題意図】

認知行動療法の代表的な技法であるエクスポージャーについて、理論的背景・技法のバリエーション・効果と限界など実践的な面を含み包括的な理解ができているかを確認する設問であった。

【解答例・講評】

理論的背景については基本的には学習理論に基づいた説明ができているか、技法については暴露する際の刺激がイメージ上か現実場面、そして刺激の強弱のバリエーションなどを挙げられるか、効果と限界について適切に指摘できているかが評価のポイントであった。ほとんどの回答者はエクスポージャー自体を理解していた一方でその理解の程度には深淺があり、設問として適切であった。

設問Ⅲ

【出題意図】

臨床心理学的支援におけるアセスメントの一環として行われる心理検査について、検査結果をフィードバックする際の留意点を尋ねることで、心理検査の役割や限界、心理士としての職業倫理や適切な支援関係に関する理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

要支援者の理解力や心情を考慮した説明を行うこと、結果について主訴や生活に紐づけて説明すること、課題点のみを説明するのではなく今後の支援の方針と合わせて伝えること、検査の限界について説明することなどについて、その必要性を含めて論理的に記述できているか、内容に具体性があるか等の観点から評価を行った。

幅広い観点から3つの留意点を抽出し回答できている受験者がいる一方、類似内容を3点として挙げる者も見られ、理解の深度や視野の広さに差が認められた。また、要支援者への配慮のみならず多職種連携の観点から論じる受験者もあり、心理士の職責に対する包括的理解を問うことができた。

設問Ⅳ(1)

【出題意図】

精神保健福祉法に定められている入院形態の一つである任意入院について問うことで、精神医療についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

解答例：精神科病院に精神障害者が入院する場合に、本人の同意に基づいて入院が行われること、精神保健福祉法に規定されていることなどの基礎的な知識があるかなどの観点で評価を行った。

講評：この用語を全く理解していない者は少なかったが、内容を正しく理解していない者、他の入院形態と混同している者が見られた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問Ⅳ(2)

【出題意図】

児童に見られることがある疾患である場面緘黙について、その症状などの理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

解答例：他の状況で話しているにもかかわらず、話すことが期待されている特定の社会的状況に老いて話すことができないこと、そのために学業上・職業上の成績や対人的コミュニケーションが妨げられているなどの状態像を理解しているかなどの観点から評価を行った。

講評：この用語を全く理解していない者も見られたが、誤った理解をしている者も散見された。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問Ⅳ (3)

【出題意図】

青年期心性や危機と関連の深い概念であるアイデンティティステータスについて、基本的理解ができていないかを確認する設問。

【解答例・講評】

アイデンティティ形成状態に関する分類であることを指摘し、基本的な4段階の説明等ができていないことが評価のポイントであった。回答者の4割ほどがこの用語を理解していないと思われる一方、詳細に記述する者も多くあり、弁別力が高い設問であった。

設問Ⅳ (4)

【出題意図】

ストレス状態である認知的不協和について、基本的理解ができていないかを確認する設問。

【解答例・講評】

矛盾した認知が併存することにより生じる不快な心的状態であり、その状態の解消が動機付けられていることを指摘できているか等が評価のポイントであった。回答者の3割弱がこの用語を理解していない、あるいは同じ認知的斉一性理論であるハイダーのバランス理論と混同していた。一方で詳細に記述する者も多くあり、弁別力が高い設問であった。

設問Ⅳ(5)

【出題意図】 設問Ⅳでは、臨床心理学や関連領域における重要な専門用語・概念などの基礎的理解を問うものである。(5)は、事例研究法に関する一般的な理解を問う問題であった。

【解答例・講評】

解答例：事例研究が用いられるべき文脈（複合的症状や問題、プロセスや相互作用）とその意義（量的研究では見ることができない点）、一方で、弱点となること（一般化可能性の限界）に触れていること。

講評：この用語を全く理解していない者は少なく、理解の深度の違いが捉えられた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問Ⅳ(6)

【出題意図】

設問Ⅳでは、臨床心理学や関連領域における重要な専門用語・概念などの基礎的理解を問うものである。(6)は、心理療法の技法であるリフレーミングに関する一般的な理解を問う問題であった。

【解答例・講評】

解答例：家族療法・短期療法における技法であること、また既存のフレームを壊して新たなフレームが形成されるための技法であることが例などをあげて述べられていること。

講評：この用語を全く理解していない者も見られたが、誤った理解をしている者が散見されていた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問 IV-(7)

【出題意図】

臨床心理学的アセスメントにおいて用いられる代表的な心理検査の1つであるPFスタディの概要についての知識を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

投影法検査に分類されることや、欲求不満状況を表す刺激図を利用してパーソナリティ傾向をアセスメントする検査であること、攻撃性の方向と攻撃型の組み合わせで分析を行うといった特徴について適切な日本語で表現できているかどうかを確認した。講評として、比較的多くの受験者が検査の概要については説明できていたが、理解の深度に差がみられており、問題として適切であったと判断している。

設問 IV-(8)

【出題意図】

臨床心理学的支援の効果検証のための研究計画で多く用いられる、参加者内要因についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

同一の参加者に対して複数の異なる条件や測定が実施される場合に、その影響を調べる要因であることが適切な日本語で表現できているかどうかを確認した。講評として、要因と水準の概念を混同した解答や、剰余変数についての説明を行っている解答などが多くみられており、概念についての適切な理解の有無を把握できたと考えられ、問題として適切であったと判断している。

◎出題意図, 解答例, 講評

試験科目名 □専門科目: _____

□外国語科目: _____

■小論文 (社会人特別選抜)

□小論文 (外国人留学生特別選抜)

設問 I

【出題意図】

文章の内容を読解する能力および解答を第意に沿って論理的に提示する表現能力を問うた。問1では、文章の内容を読み取り、著者の主張がなされた理由を、論理的かつ明確に説明する能力を問うた。問2では、著者の主張に対して、賛成と反対の双方の立場に立ち、自らの経験と専門性を踏まえて、自らの思考を論理的に表現する能力を問うた。

【解答例・講評】

上記のトピックについて、問題文の指示に従った上で、自身の有する知識・経験に基づいて適切に説明が行えているか、解答の論理的な展開が適切か、用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 □専門科目： _____

□外国語科目： _____

■小論文（社会人特別選抜）

□小論文（外国人留学生特別選抜）

設問 Ⅱ

【出題意図】

表の各数値を正確に読み取り、数値同士の関係を把握し、そこで確認された問題を、自分の専門分野の知見から説明する能力を問うた。問1では、2種類の表から数値や割合を読み取り、その関係について説明を求めた。問2では、問1で読み取った内容を元に、自身の専門分野の知見から課題や解決法を導き出す能力を問うた。

【解答例・講評】

上記について、問題文の指示に従った上で、各数値を正確に読み取れているか、また読み取った内容と自身の専門性を関連づけ、論理的な説明ができているか、日本語が適切かといった観点で採点を行った。

試験科目名

専門科目： 臨床心理学コース

外国語科目： _____

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問 I

【出題意図】

最も代表的な精神疾患の一つである統合失調症についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

思考障害、自我障害などの代表的な症状、発症は若年層に多いこと、操作的診断基準の理解、薬物療法を中心とした治療、心理職による多面的な支援等について基礎的な知識があるかなどの観点から評価を行った。

精神医学用語をきちんと使用し、回答できている受験者がいる一方、疾患についての理解が不十分で基礎的な学習が欠けていると思われる者も見られた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問 II

【出題意図】

認知行動療法の代表的な技法であるエクスポージャーについて、理論的背景・技法のバリエーション・効果と限界など実践的な面を含み包括的な理解ができているかを確認する設問であった。

【解答例・講評】

理論的背景については基本的には学習理論に基づいた説明ができているか、技法については暴露する際の刺激がイメージ上か現実場面、そして刺激の強弱のバリエーションなどを挙げられるか、効果と限界について適切に指摘できているかが評価のポイントであった。ほとんどの回答者はエクスポージャー自体を理解していた一方でその理解の程度には深淺があり、設問として適切であった。

設問Ⅲ

【出題意図】

臨床心理学的支援におけるアセスメントの一環として行われる心理検査について、検査結果をフィードバックする際の留意点を尋ねることで、心理検査の役割や限界、心理士としての職業倫理や適切な支援関係に関する理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

要支援者の理解力や心情を考慮した説明を行うこと、結果について主訴や生活に紐づけて説明すること、課題点のみを説明するのではなく今後の支援の方針と合わせて伝えること、検査の限界について説明することなどについて、その必要性を含めて論理的に記述できているか、内容に具体性があるか等の観点から評価を行った。

幅広い観点から3つの留意点を抽出し回答できている受験者がいる一方、類似内容を3点として挙げる者も見られ、理解の深度や視野の広さに差が認められた。また、要支援者への配慮のみならず多職種連携の観点から論じる受験者もあり、心理士の職責に対する包括的理解を問うことができた。

設問 IV-(1)

【出題意図】

精神保健福祉法に定められている入院形態の一つである任意入院について問うことで、精神医療についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

解答例：精神科病院に精神障害者が入院する場合に、本人の同意に基づいて入院が行われること、精神保健福祉法に規定されていることなどの基礎的な知識があるかなどの観点で評価を行った。

講評：この用語を全く理解していない者は少なかったが、内容を正しく理解していない者、他の入院形態と混同している者が見られた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問 IV-(2)

【出題意図】

児童に見られることがある疾患である場面緘黙について、その症状などの理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

解答例：他の状況で話しているにもかかわらず、話すことが期待されている特定の社会的状況に老いて話すことができないこと、そのために学業上・職業上の成績や対人的コミュニケーションが妨げられているなどの状態像を理解しているかなどの観点から評価を行った。

講評：この用語を全く理解していない者も見られたが、誤った理解をしている者も散見された。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問Ⅳ (3)

【出題意図】

青年期心性や危機と関連の深い概念であるアイデンティティステータスについて、基本的理解ができているかを確認する設問。

【解答例・講評】

アイデンティティ形成状態に関する分類であることを指摘し、基本的な4段階の説明等ができていたことが評価のポイントであった。回答者の4割ほどがこの用語を理解していないと思われる一方、詳細に記述する者も多くあり、弁別力が高い設問であった。

設問Ⅳ (4)

【出題意図】

ストレス状態である認知的不協和について、基本的理解ができているかを確認する設問。

【解答例・講評】

矛盾した認知が併存することにより生じる不快な心的状態であり、その状態の解消が動機付けられていることを指摘できているか等が評価のポイントであった。回答者の3割弱がこの用語を理解していない、あるいは同じ認知的斉一性理論であるハイダーのバランス理論と混同していた。一方で詳細に記述する者も多くあり、弁別力が高い設問であった。

設問Ⅳ(5)

【出題意図】 設問Ⅳでは、臨床心理学や関連領域における重要な専門用語・概念などの基礎的理解を問うものである。(5)は、事例研究法に関する一般的な理解を問う問題であった。

【解答例・講評】

解答例：事例研究が用いられるべき文脈（複合的症状や問題、プロセスや相互作用）とその意義（量的研究では見ることができない点）、一方で、弱点となること（一般化可能性の限界）に触れられていること。

講評：この用語を全く理解していない者は少なく、理解の深度の違いが捉えられた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問Ⅳ(6)

【出題意図】

設問Ⅳでは、臨床心理学や関連領域における重要な専門用語・概念などの基礎的理解を問うものである。(6)は、心理療法の技法であるリフレーミングに関する一般的な理解を問う問題であった。

【解答例・講評】

解答例：家族療法・短期療法における技法であること、また既存のフレームを壊して新たなフレームが形成されるための技法であることが例などをあげて述べられていること。

講評：この用語を全く理解していない者も見られたが、誤った理解をしている者が散見されていた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問 IV-(7)

【出題意図】

臨床心理学的アセスメントにおいて用いられる代表的な心理検査の1つであるPFスタディの概要についての知識を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

投影法検査に分類されることや、欲求不満状況を表す刺激図を利用してパーソナリティ傾向をアセスメントする検査であること、攻撃性の方向と攻撃型の組み合わせで分析を行うといった特徴について適切な日本語で表現できているかどうかを確認した。講評として、比較的多くの受験者が検査の概要については説明できていたが、理解の深度に差がみられており、問題として適切であったと判断している。

設問 IV-(8)

【出題意図】

臨床心理学的支援の効果検証のための研究計画で多く用いられる、参加者内要因についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

同一の参加者に対して複数の異なる条件や測定が実施される場合に、その影響を調べる要因であることが適切な日本語で表現できているかどうかを確認した。講評として、要因と水準の概念を混同した解答や、剰余変数についての説明を行っている解答などが多くみられており、概念についての適切な理解の有無を把握できたと考えられ、問題として適切であったと判断している。

◎出題意図, 解答例, 講評

試験科目名

 専門科目 : _____ 外国語科目 : _____ 小論文 (社会人特別選抜) 小論文 (外国人留学生特別選抜)

設問 I

【出題意図】

(1) 教育や成長に関する学術的文章を提示し、その中から筆者の核心的主張と具体例を正しく理解し、要点を 300 字程度に簡潔にまとめる力を評価しようとしたもの。読解力と要約力、そして日本語で論理的に再構成する力を測ることを目的とした。

(2) 筆者の見解「教育の成果とは別人になることだ」について、自らの立場を明確に示し、実体験をもとに論じさせることで、日本語による思考の展開力・表現力・説得力を評価しようとしたもの。

【解答例・講評】

(1) 要約では、筆者の核心主張と故事を正確に捉え、制限字数内で簡潔に表現できているかを評価した。核心を十分に再現し具体例を適切に盛り込めた者もいれば、成長を量的増大と混同し、重要要素を落として説得力を欠く回答もあり、理解力・要約力の差が示された。

(2) 意見文では、筆者の見解を踏まえつつ自らの経験を根拠に論理的に展開し、具体性・説得力・構成の明快さを備えているかを評価した。具体的体験を的確に関連付けて論旨を展開した者もいれば、一般論に終始し冗長で、体験の具体性を欠いた回答もあり、論理性・表現力の差が明らかとなった。

設問 II

【出題意図】

(1) こども家庭庁が行った「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査 (令和 5 年度)」報告書から、「学校に通う意義」についての結果の図を示し、現状を正しく読み取ることができる力、またそれを要約し日本語で適切に表現できる力を評価しようとしたもの。(2) 現状の改善案について回答させることで、日本語の文章で自身の考えを表現する力を評価しようとしたもの。

【解答例・講評】

(1) 全体像、経年変化、諸外国との異同について正しく捉え、これらを適切に日本語で表現できているか評価した。網羅的に理解し表現できている者もいる一方、1つの側面のみに着目しない回答もあり、理解力・表現力の差が示された。(2) 言語的能力 (文法・語彙・表記)、論理性、

主張の明確さ・非冗長性、文章構成、文章量などの諸観点から、評価を行った。回答が未完な者が複数おり、文章表現力の差が示された。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名

専門科目： 臨床心理学コース

外国語科目： _____

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問 I

【出題意図】

最も代表的な精神疾患の一つである統合失調症についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

思考障害、自我障害などの代表的な症状、発症は若年層に多いこと、操作的診断基準の理解、薬物療法を中心とした治療、心理職による多面的な支援等について基礎的な知識があるかなどの観点から評価を行った。

精神医学用語をきちんと使用し、回答できている受験者がいる一方、疾患についての理解が不十分で基礎的な学習が欠けていると思われる者も見られた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問 II

【出題意図】

認知行動療法の代表的な技法であるエクスポージャーについて、理論的背景・技法のバリエーション・効果と限界など実践的な面を含み包括的な理解ができているかを確認する設問であった。

【解答例・講評】

理論的背景については基本的には学習理論に基づいた説明ができているか、技法については暴露する際の刺激がイメージ上か現実場面、そして刺激の強弱のバリエーションなどを挙げられるか、効果と限界について適切に指摘できているかが評価のポイントであった。ほとんどの回答者はエクスポージャー自体を理解していた一方でその理解の程度には深淺があり、設問として適切であった。

設問Ⅲ

【出題意図】

臨床心理学的支援におけるアセスメントの一環として行われる心理検査について、検査結果をフィードバックする際の留意点を尋ねることで、心理検査の役割や限界、心理士としての職業倫理や適切な支援関係に関する理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

要支援者の理解力や心情を考慮した説明を行うこと、結果について主訴や生活に紐づけて説明すること、課題点のみを説明するのではなく今後の支援の方針と合わせて伝えること、検査の限界について説明することなどについて、その必要性を含めて論理的に記述できているか、内容に具体性があるか等の観点から評価を行った。

幅広い観点から3つの留意点を抽出し回答できている受験者がいる一方、類似内容を3点として挙げる者も見られ、理解の深度や視野の広さに差が認められた。また、要支援者への配慮のみならず多職種連携の観点から論じる受験者もあり、心理士の職責に対する包括的理解を問うことができた。

設問Ⅳ(1)

【出題意図】

精神保健福祉法に定められている入院形態の一つである任意入院について問うことで、精神医療についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

解答例：精神科病院に精神障害者が入院する場合に、本人の同意に基づいて入院が行われること、精神保健福祉法に規定されていることなどの基礎的な知識があるかなどの観点で評価を行った。

講評：この用語を全く理解していない者は少なかったが、内容を正しく理解していない者、他の入院形態と混同している者が見られた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問Ⅳ(2)

【出題意図】

児童に見られることがある疾患である場面緘黙について、その症状などの理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

解答例：他の状況で話しているにもかかわらず、話すことが期待されている特定の社会的状況に老いて話すことができないこと、そのために学業上・職業上の成績や対人的コミュニケーションが妨げられているなどの状態像を理解しているかなどの観点から評価を行った。

講評：この用語を全く理解していない者も見られたが、誤った理解をしている者も散見された。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問Ⅳ (3)

【出題意図】

青年期心性や危機と関連の深い概念であるアイデンティティステータスについて、基本的理解ができているかを確認する設問。

【解答例・講評】

アイデンティティ形成状態に関する分類であることを指摘し、基本的な4段階の説明等ができていたことが評価のポイントであった。回答者の4割ほどがこの用語を理解していないと思われる一方、詳細に記述する者も多くあり、弁別力が高い設問であった。

設問Ⅳ (4)

【出題意図】

ストレス状態である認知的不協和について、基本的理解ができているかを確認する設問。

【解答例・講評】

矛盾した認知が併存することにより生じる不快な心的状態であり、その状態の解消が動機付けられていることを指摘できているか等が評価のポイントであった。回答者の3割弱がこの用語を理解していない、あるいは同じ認知的斉一性理論であるハイダーのバランス理論と混同していた。一方で詳細に記述する者も多くあり、弁別力が高い設問であった。

設問Ⅳ-(5)

【出題意図】 設問Ⅳでは、臨床心理学や関連領域における重要な専門用語・概念などの基礎的理解を問うものである。(5)は、事例研究法に関する一般的な理解を問う問題であった。

【解答例・講評】

解答例：事例研究が用いられるべき文脈（複合的症状や問題、プロセスや相互作用）とその意義（量的研究では見ることができない点）、一方で、弱点となること（一般化可能性の限界）に触れていること。

講評：この用語を全く理解していない者は少なく、理解の深度の違いが捉えられた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問Ⅳ-(6)

【出題意図】

設問Ⅳでは、臨床心理学や関連領域における重要な専門用語・概念などの基礎的理解を問うものである。(6)は、心理療法の技法であるリフレーミングに関する一般的な理解を問う問題であった。

【解答例・講評】

解答例：家族療法・短期療法における技法であること、また既存のフレームを壊して新たなフレームが形成されるための技法であることが例などをあげて述べられていること。

講評：この用語を全く理解していない者も見られたが、誤った理解をしている者が散見されていた。回答に差が見られ、問題として適切であった。

設問 IV-(7)

【出題意図】

臨床心理学的アセスメントにおいて用いられる代表的な心理検査の1つであるPFスタディの概要についての知識を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

投影法検査に分類されることや、欲求不満状況を表す刺激図を利用してパーソナリティ傾向をアセスメントする検査であること、攻撃性の方向と攻撃型の組み合わせで分析を行うといった特徴について適切な日本語で表現できているかどうかを確認した。講評として、比較的多くの受験者が検査の概要については説明できていたが、理解の深度に差がみられており、問題として適切であったと判断している。

設問 IV-(8)

【出題意図】

臨床心理学的支援の効果検証のための研究計画で多く用いられる、参加者内要因についての理解の程度を問う意図で出題した。

【解答例・講評】

同一の参加者に対して複数の異なる条件や測定が実施される場合に、その影響を調べる要因であることが適切な日本語で表現できているかどうかを確認した。講評として、要因と水準の概念を混同した解答や、剰余変数についての説明を行っている解答などが多くみられており、概念についての適切な理解の有無を把握できたと考えられ、問題として適切であったと判断している。